

教育上の課題と工夫

社会の新型コロナウイルス予防対策状況の変化に合わせ、図書館で提供されるサービスはパンデミック前に戻っている。

1. 座席数の削減、アルコール等の設置などの感染要望対策について

感染予防対策として、閲覧席を5割、ラーニングコモンズを3割削減し、ラーニングコモンズにはアクリルパネルを設置していたが、これを以前の状態に戻している。インフルエンザなどの感染予防対策のためにアルコールの設置は一部継続している。また、非接触型体温測定機ラーニングコモンズへの空気清浄機の設置は継続されている。

2. 図書館利用制限について

休館やグループ学習室の利用制限を行っていた時期もあるが、これらの利用制限は実施されていない。

3. 学外利用者について

学外者の来館制限を行っていた時期があったが、現在制限はない。

表) 図書館（閲覧室）の利用状況*

年度	年間利用者数 (人)	貸出冊数 (冊)	ILL 複写件数		RemoteXs** ログイン回数
			依頼	受付	
令和4年	38,737	7,927	103	432	3,090
令和5年 (11月31日現在)	23,302	3,128	97	368	2,388

*学内者専用スペースであるラーニングコモンズの利用者は把握されていない

** 学外から契約データベース等にアクセスするためのリモートアクセスサービス

コロナ禍の教育活動を振り返って

発声の場面が少なく飲食のない図書館閲覧室は、感染予防の観点から比較的安全なスペースと考えられることから、いろいろな利用制限を加える必要があるのか、当初から疑問に感じていた。学生の学内立ち入り禁止の措置まで取られたことを考えるといたしかた無かったのかもしれないが、パンデミックの長期化と学修の重要性を考えた場合、いろいろな場面や状況に応じて大学側の対応にもう少し柔軟性があってもよかったのではと反省させられる。政府の号令で感染予防対策を国民が一斉に極端に強めたり弱めたりする社会の在り方は、コントロールと協調性が欠如した社会よりはよいのかもしれないが、皆が一斉に同じ方向に突っ走って悲劇を招いた日本の過去を考えると、リスクを抱えているように見えて仕方がない。様々な情報や状況を一人一人が冷静に考え判断することの重要性を、学生がコロナ禍から読み取ってくれていることを願うばかりである。